Title	地域在住高齢者身体活動促進の普及・継続/認知症予防・早期発見支援システム構築
Sub Title	Dissemination and maintenance of physical activity promotion/support system in prevention and early detection of dementia among community-dwelling elderly.
Author	小熊, 祐子(Oguma, Yuko)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2019
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2018.)
JaLC DOI	
Abstract	2018年度は、前年度までの実績を踏まえ、状況に応じて実施し相互に参照可能な身体活動・体力指標・認知機能などの評価システムを含め、長期的な身近な地域で定期的に運動を行うコミュニティの維持継続システムを提案することを目的とした。 機能的に実施している様沢市の小グルーブ運動か入グループの支援を継続し、3年後調査を計らゲループ148名(CADICによる認知機能の評価は138名)に実施して、本年度は別資金で導入したIPadを用いたアンケート入力システムおよび、その後のデータ統合蓄積システムを用いて小グループ キャーではいる様沢市の小グループ キャーではいる様沢市の小グループでにおける健康チェックを行うことができた。本年度の経験を集約し年度末にGUI改良を行った。本年度は関係チェック、その他のセシァイングで活用していく予定である。本年度は研究グループ以外に、健康イベントにおけるPadを用いた別期機能チェック、権力制定による簡易体力チェック、体組成計を用いた体組成チェックを新たに行うことができた。また、ホーベージ(3月に改良)・ユースレター等による多レベルの情報発信も継続的に行うことができた。並行して、身体活動の継続や音及等に関するインタヒュー調査を実施し、昨年度までの成果に加え「アドボケイツ」の存在と業者が明らかとなった。本研究は、実社会に即した研究であり長期に多角的項目について追跡できているのが特徴である。一方欠損値が少なからず生じるため統計学的処理が必要である。高度な技術を習得・解析に活かした。今後、本研究成果を市の事業に漸次実装するとともに長期的に関わり評価・改善を図る。また、本研究を契機に日本の地域コミュニティにおける身体活動促進のレビューをWHO西太平洋事務局と協働で行うこととなり、3月にマニラで打ち合わせを行った。本研究を含めた日本の身体活動促進研究レビューと世界への発信、Global Action Plan on Physical Activity2018-2030 (WHO2018) の日本での推進を、さらに進めていく予定である。のでの自じいはいまりを持定を持ているの場がは関すないまります。 はいまいまの対象性が表現である。 また、本研究を実践によるはいまりまりまりまります。 また、本研究を実践によるはいまりまりまりまります。 はいまります。 はいまりまりまりまりまります。 また、本研究を実践を含めた日本の身体活動に進いすりまりまります。 また、本研究を実践していまりまりまりまりまります。 また、本研究を実践していまりまりまりまりまります。 また、本研究を実践していまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまります。 また、本研究を実践を持定していまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまりまり

		the Global Action Plan on Physical Activity 2020-2030 (WHO 2018) in Japan.
Notes		
	Genre	Research Paper
	URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2018000006-20180390

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 2018 年度 学事振興資金(共同研究)研究成果実績報告書

研究代表者	所属	スポーツ医学研究センター	職名	准教授	補助額	1,000	千円
物元  (数有	氏名	小熊 祐子	氏名 (英語)	Yuko Oguma			

#### 研究課題 (日本語)

地域在住高齢者身体活動促進の普及・継続/認知症予防・早期発見支援システム構築

## 研究課題 (英訳)

Dissemination and Maintenance of physical activity promotion/ support system in prevention and early detection of dementia among community-dwelling elderly.

研究組織						
氏 名 Name	所属・学科・職名 Affiliation, department, and position					
小熊祐子 (Yuko Oguma)	スポーツ医学研究センター・准教授					
三村 將 (Masaru Mimura)	医学部精神神経科・教授					
武林 亨 (Toru Takebayashi)	医学部衛生学公衆衛生学教室・教授					
小松浩子 (Hiroko Komatsu)	看護医療学部·教授					
仰木裕嗣(Yuji Ohgi)	大学院政策メディア研究科・教授					
新井康通(Yasumichi Arai)	医学部百寿総合研究センター・専任講師					
齋藤義信(Yoshinobu Saito)	大学院健康マネジメント研究科・助教(有期)					

#### 1. 研究成果実績の概要

2018 年度は、前年度までの実績を踏まえ、状況に応じて実施し相互に参照可能な身体活動・体力指標・認知機能などの評価システムを含め、長期的な身近な地域で定期的に運動を行うコミュニティの維持継続システムを提案することを目的とした。

継続的に実施している藤沢市の小グループ運動介入グループの支援を継続し、3 年後調査を計 8 グループ 148 名 (CADi2 による認知機能の評価は 138 名) に実施した。本年度は別資金で導入した iPad を用いたアンケート入力システムおよび、その後のデータ統合蓄積システムを用いて小グループにおける健康チェックを行うことができた。本年度の経験を集約し年度末に GUI 改良を行った。来年度以降の健康チェック、その他のセッティングで活用していく予定である。本年度は、研究グループ以外に、健康イベントにおける iPadを用いた認知機能チェック・握力測定による簡易体力チェック、体組成計を用いた体組成チェックを新たに行うことができた。また、ホームページ(3 月に改良)・ニュースレター等による多レベルの情報発信も継続的に行うことができた。並行して、身体活動の継続や普及等に関するインタビュー調査を実施し、昨年度までの成果に加え「アドボケイツ」の存在と意義が明らかとなった。

本研究は、実社会に即した研究であり長期に多角的項目について追跡できているのが特徴である。一方欠損値が少なからず生じるため統計学的処理が必要である。高度な技術を習得・解析に活かした。今後、本研究成果を市の事業に漸次実装するとともに長期的に関わり評価・改善を図る。

また、本研究を契機に日本の地域コミュニティにおける身体活動促進のレビューを WHO 西太平洋事務局と協働で行うこととなり、3 月にマニラで打ち合わせを行った。本研究を含めた日本の身体活動促進研究レビューと世界への発信、Global Action Plan on Physical Activity2018-2030 (WHO2018)の日本での推進を、さらに進めていく予定である。

## 2. 研究成果実績の概要(英訳)

Our goal in 2018 was to establish group-based physical activity which the elderly can regularly participate in their community close to their living place and propose a system about physical activity, physical fitness indicators, and cognitive functions that can be referred to each other depending on the situation.

Continued support was offered for a small group exercise intervention program in Fujisawa City; after three years, health checks were conducted with a total of 148 older adults in eight groups (138 had their cognitive function screened with Cognitive Assessment for Dementia, iPad version 2 (CADi 2). In 2018, it was possible to conduct such health checks in small groups with a questionnaire input system using iPads; these checks were introduced using a separate fund, and later, a data integration storage system was added.

We summarized the experience of this year and made Graphical User Interface improvements in March. We plan to use the application for health checks and other settings. In 2018, in addition to the research groups, we were able to perform cognitive function checks using iPads at health events, simplified physical fitness checks by measuring grip strength, and body composition checks using Bioelectrical Impedance Analysis. Also, we were able to continuously send multi-level information through our website (improved in March) as well as through newsletters. At the same time, an interview survey on the dissemination and maintenance of physical activity promotion was conducted, and the existence and significance of "advocates" were clarified in addition to the results from the studies that had been conducted up until the previous year.

This research has been performed in the real world setting and makes it possible to track multiple items over time. However, statistical processing is necessary because there are several missing values. Because of this, we needed to learn to use advanced statistical analysis. In the future, we will gradually integrate this research result into the city's business and aim to evaluate and improve the long-term relationship.

Further, this study led to a review of the promotion of physical activity in local communities in Japan in collaboration with the WHO Western Pacific Regional Office, and a meeting was held in Manila in March. We plan to further promote the review of good Japanese practices of physical activity promotions, including this research, in transmissions to the world, as well as a promotion of the Global Action Plan on Physical Activity 2020–2030 (WHO 2018) in Japan.

3. 本研究課題に関する発表							
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)				
小熊祐子、齋藤義信	健康長寿社会における身体活動と 健康 - 「ふじさわプラス・テン」の取り組みを通して-	予防医学	2019年1月				
柴知里, 齋藤義信, 今村晴 彦, 田中あゆみ, 土村里佳, 小熊祐子	高齢者地域コミュニティのグループ 運動継続に関わる特徴	日本健康教育学会誌	2018年5月				
齋藤義信,田島敬之,柴知里,小熊祐子	身体活動促進のためのポピュレーションアプローチ: ふじさわプラス・テンの取り組み	日本健康教育学会誌	2019 年2月				
小熊祐子、齋藤義信,田島 敬之	がんサバイバーの身体活動·運動 と健康増進	日本健康教育学会誌	2019 年2月				
	Maintenance of physical activity level and dissemination of "Plus Ten" message in community-based group exercise.	American College of Sports	2018年5月				
Saito Y, Tanaka A, Tajima T, Kibayashi Y, Miyachi M, Oguma Y.	community-wide physical activity	The 7th International Society for Physical Activity and Health Congress	2018年10月				
Tajima T, Saito Y, Kibayashi Y, Oguma Y.	Effects of replacing sedentary behavior with different intensities of physical activity on physical function among community—dwelling elderly: A cross—sectional study.	Physical Activity and Health	2018年10月				
伊藤智也		大学院健康マネジメント研究科修 士課程課題研究論文	2019年3月				
川瀬敦子	ソーシャル・キャピタルと主観的健康観の関連 ―藤沢市在住の壮年期と高齢期を対象とした横断研究	大学院健康マネジメント研究科修 士課程課題研究論文	2019年3月				
伊藤智也	運動継続の秘訣!はじめようプラス・テン♪—ふじさわプラス・テンプロジェクト—	Open Research Forum Pitch 講演	2018年11月				
小熊祐子	スポーツ・身体活動のすすめ―今、 世界中で必要なこと―	Open Research Forum Pitch 講演	2018年11月				